

農林漁業現地事例情報「食料自給率向上に資する取組事例」

行動計画の項目に基づいた分類：イ 食育の推進の取組

取組名：グリーンツーリズムによる食育の推進

取組主体：うらほろ子ども農山漁村交流プロジェクト（北海道・浦幌町）

1 取組の背景

浦幌町では、地域と農林水産業の活性化を目指し、食育を推進するために、グリーンツーリズムによる都会からの児童・生徒を受け入れることにした。

2 取組の具体的内容

受け入れの第1陣として10月2日大阪府立北摂つばさ高校の生徒25人が来町、2～4人のグループごとに農家8戸、林業者1戸に宿泊した。

滞在先では、ばれいしょやミニトマト等の収穫、トラクター試乗、家畜の世話、林産加工（マイ箸作り）を体験、夕食は自ら収穫したばれいしょや野菜で同プロジェクト統一メニューであるカレーを、生徒と家族が共同で調理し交流を深めた。

※同校は生徒250人が修学旅行で十勝川温泉に滞在、うち1グループ（25人）が今回農業体験を行った。

3 取組の具体的効果

空部屋の有効活用することで、少ない経費で宿泊料等の副収入が得られる。

本州等、他地域の生徒を受け入れることで「浦幌町」の知名度向上につながる消費地の生徒たちに生産現場を体験させることで、食育の推進につながる。

4 今後の展開方向

21年度までに受入態勢の充実を図り、農林漁業を1日ずつ体験する4泊5日のプログラムを作成予定。

宿泊体験の希望者増加に対応するため、同プロジェクトへ参加する農林漁業者の増加を図る。

農産物に加え、海産物を提供するため、民宿経営者の同プロジェクトの参加を呼びかける。

21年4月から内部組織の受入準備委員会を、受入協議会へ移行する。

浦幌町の農産物で特産スイーツやお土産等を開発し、地域経済の発展を目指す。

同町の子どもを対象に宿泊体験活動を実施、町民へグリーンツーリズムの理解と推進を図る。

※21年浦幌町は「子ども農山村交流プロジェクト」のモデル地域の指定を受ける予定である。

5 取組に係る問題点と解決策

- ・浦幌町観光とイベント後の午後3時から各農家等で作業体験、翌日の早朝全体集合だったため滞在時間が短かく、作業等を説明する時間が少なかった。今後は時間を有効に使えるよう午前中に農家等へ入り、十分な説明や案内ができるようにしたい。
- ・子ども達から来た手紙やアンケート結果から今後の課題を整理、受け入れた農林漁業者間で情報を共有し問題点等を改善する。
- ・宿泊体験の希望者増加が予想されるが、浦幌町だけでは修学旅行生全員を受け入れられないため、他の町村と協力し十勝地域全体で対応できる体制を作りたい。



自分達で収穫したスイートコーンを味わう。
※「今までに食べたことのない甘さ」と大好評でした。(農薬を減らし有機肥料で栽培したこだわりのスイートコーン)



自分達で収穫したにんじん、ばれいしょで奥さんと協力してカレーを作る。
※カレーは同プロジェクトの統一メニュー



宿泊する家族と一緒にカレーを味わう。
※ばれいしょ、にんじんとともに大好評でお土産にばれいしょを購入。

【情報収集官署】北海道農政事務所 池田統計・情報センター

連絡先：015-572-2239